



国際ロータリー第2730地区
佐土原ロータリークラブ
例会日 毎週金曜日 12:30-13:30
例会場 ホテル神宮寺 0985-73-0015

Real Happiness is Helping Others
ごとの幸福は人助けから

1992. 7. 3 (金) 第228回例会
1. 点 鐘
 2. 国歌斉唱
 3. ロータリーソング「それでこそローター」
 4. 「四つのテスト」唱和
 5. 食 事
 6. 会長の時間
 7. 幹事報告
 8. 各委員会報告
 9. 7月セレモニー (誕生日・結婚記念日祝)
 10. 本年度方針
 11. 点 鐘

第227回例会記録
(1992. 6. 26)

会長の時間 濱田 松太郎
皆さん今日は、本日は第227回例会です。
1991～92年度最後の例会となりました。
この1年間、不肖僕にとりましては、生涯を通じて、名誉ある佐土原ロータリー・クラブ会長というかけがえない体験をさせていただきました。正直に言って長い1年でありましたが、すごく感動の連続でありました。そして、身に余る光栄と思っております。
皆さん本当に有り難うございました。
本年度の最大の目標は“会員の増強”でしたが、結果におきましてはお見かけの通りであります。「言うは易く、行方は難し」とは、正に諺のとおりになりましたが、この点不徳のいたすところでもありまして、皆様方のご期待に副

うことができず本当に申訳けないと深く反省いたしているところであります。
当クラブは、創立以来今日まで33名の入会者がいまして、かりに退会者が1人も出ていなければ、これだけの人数でもって後は利息が利息を生み、自然増加は期せずして叶えられたものと確信いたします。つきましては、今後の重要課題としては、「いかに努力すれば退会者を防止することができるか」ということに尽きるのではないかと思います。
さらに本年度は、ラジェンドラ・サブ・R I 会長の提唱された「自分を越えた眼を」のテーマの下、奉仕の理想向上に努力しましたが、遥かに遠いものを感じさせました。しかし、各役員、各委員を通じ、ロータリアンの皆様方の心温まるご支援によりまして、どうかかその任務を全うすることができました。ここに重ねて厚く御礼申し上げます。
「軽き身に重き任務をつつがなく、果して降りる今日ぞ嬉しき」
終りにりましたが、次年度は新進気鋭の岩切会長を中心として、すでに発表になりました極めてユニークな構想によりますバラシイ佐土原ロータリー・クラブの活性化と直立のため、皆様方の一段のご協力をお願い申上げる次第であります。
以上をもちまして、会長の時間並びに会長退任の挨拶に代えさせていただきます。
皆さん本当に有り難うございました。

10月27日、アサヒ
佐土原樹友の報告
会長幹事会、4月5日

幹事報告

鈴木正敏

先日(1992.5.9)、濱田会長のポール・ハリス・フェローの認証状が届いておりますので、初代会長山脇 忍君より伝達していただきたいと思ひます。

・山脇初代会長より — 当クラブで3年振りになりますか、このたび濱田会長が名誉あるポール・ハリス・フェローになられまして、RIから井上ガバナーを通じて認証状とメダルが送られてきましたので、これを贈呈して濱田会長の名誉を称えます。

・濱田会長より — ローター入会以来、ポール・ハリス・フェローの称号をいつかは、との悲願がかなえられ嬉しい限りです。次年度はロータリー財団委員長として微力を尽くしたいと思ひますので、皆様方の財団への一層のご理解、ご協力をよろしく願ひ申し上げます。

出席報告 委員長代理 岩切正司

会 員 数	16名
欠 席 者 数	3名
H C 出 席 者 数	13名
出 席 率	81.25%
欠 席 者 名	井下・垂水・神宮寺

ビ ジ タ ー

観音寺東RC	森 英雄君
西都RC	阿万 英也君・河野 謙二君
"	長友 正三君・中武兵一郎君

会員卓話 正岡文郁

大光寺第42世古月禪師について

古月禪師は江戸時代の禪僧の中で「東の白隠西の古月」と並び称せられた名僧です。

因みに、大光寺の創建は建武2年(1335)今から657年前です。古月は42世で、私は56世です。ただし、古月が名僧なら、私は迷う方の迷僧です。今年は古月生誕後325年、亡後241年になります。即ち、1667年(

寛文7年)9月12日生れ、1751年(宝暦元年)5月25日久留米にて85歳で示寂。分骨塔が大光寺にあります。

閑栖後、有馬公から招かれ、久留米福聚寺の開山となりました。

現在では、古月の法は綿密過ぎて今日まで伝わらず、白隠の法のみが現存しています。しかし、白隠の十大弟子の中、東嶺和尚はじめ半分以上は古月門下から輩出しております。古月の方が白隠より少し先輩ですが、二人は直接は会っていません。(交通事情その他で会えなかったものと思われ)

この立派な禪僧が、この佐土原の地で誕生しているのです。来る7月18日、町の方で生誕325年を記念して、その記念碑の前で記念行事を計画していますので、私も出席しますが、夜は、古月が作られた「いろは口説」を顕彰する行事が、夏祭りに合わせて実施される予定です。

「いろは歌」は弘法大師の作、「いろは口説」は古月禪師の作です。皆さんに「いろは口説」のコピーをお配りしましたが、現代にも通用する処世訓であります。町の盆踊り保存会により「踊りのはやし」に使われ、レコードにもなっています。

ここで、古月禪師の一生について簡単に申し上げます。

古月は、町内佐賀利の金丸家に1667年に生まれ、7歳の時より佐賀利の大光寺末寺の瑞光院住職宗密の下で勉強後、同じく末寺の松巖寺一道和尚(後に大光寺40世)に就いて得度し、弟子となる。

一道に随って京都に至り、妙心寺山門の知勝院(現在も大光寺の宿坊)に入って仏典・漢詩等を修め、あちこちの名僧を訪ねて行脚(修行)し、その途中で豊後(大分県臼杵市)の多福寺に赴いて、賢巖和尚に見え深く究明する。

38歳の時、41世英山和尚の法嗣として、42世となる。

入山後、堂宇を修理し、寺域を広め、衆生の教化に邁進され、その法は大いに振った。

時の佐土原藩主5代島津惟久公は深く古月に帰依し、大いに後援をした。現在、大光寺境内に5代惟久公と6代忠雅公の墓があり、毎年島津久子女史、時々久永氏、貴子女史も墓参に見えている。

「いろは口説」(処世訓)の、

い 幼なきをば愛して通せ

ろ 老は敬い無礼をするな

は 腹が立っても過言は言うな(以下略)

はすべてコピーの活字のとおり、ロータリー精神にも通じるものがあると思います。

自分の立場だけしか考えず、相手の立場を思いやる余裕のある人が少ない現今、この「いろは口説」の意義をよく理解することは大切です。これこそ、古月禅師の教えの真髄であると考えます。

人間のすばらしさは、失敗した間違いに気づき、反省することであると言われていました。

私共の願いは、自我(オレがオレが)の無い謙虚な真心で自己反省をし、正しい目標を持って実行することであると思います。

四弘誓願文(四つの大きな心の誓願)

・衆生無辺誓願度

命あるものは数限りなくとも誓って、全て救われることを願う。

・煩惱無尽誓願断

煩惱がどんなに尽くしきれぬものであっても、誓って根絶されることを願う。

・法門無量誓願学

法がいかに無量であっても、誓って全て学ぶことを願う。

・仏道無上誓願成

仏道がいかに無上のものであっても、誓って成就することを願う。

この四句に、仏の願い、ひいては私共の願いが、全て含まれております。

即今只今、このかけがえのない人生を有意義

に過ごさなくては、人間に生まれて来た甲斐がありません。お互い自らの人生目標、自らの生きがいを自らに問い、静かにゆとりの時間を持ちたいものであります。これこそ古月禅師の教えであると思います。

全く忙しい忙しいの世の中、忙中閑在りといきたいものであります。しかし、言うは易く、行方は難し、といひます。お互に頑張りましょう。

合掌

会員卓話(続) 6/12 郡司 武俊

一般的に総入れ歯を自費診療する場合は、金属床を使います。現在は主にコバルトを材料としております。これは大体1.2mmぐらいの厚みです。ところが普通の入歯ですと、この厚みでは割れますので、どうしても3mm~4mmの厚さにしなければなりません。口腔内に入れたとき相当の違和感があります。また、材料がプラスチックですから、熱が伝わりません。金属床の場合は熱の伝導がありますから、それが脳に伝わり、ものを食べた、お茶を飲んだ、という感覚がわかります。金属床総入れ歯で大体15万円程度です。

年をとってくると唾の量が減り、口の中が乾いてきます。それを防ぐために、片面が金属、片面がメッシュになっていて、その中に人工唾液を入れ、表面から少しずつ唾液が出るようにしてある金属床もあります。これはまだ値段がわかりません。

先ほど回覧しました義歯は、見た目には少しも変わりませんが、一方が保険で、一方が自費のものです。保険のものは1本800円ぐらいですが、自費の方は7万円~8万円します。

保険の方はプラスチックで、欠点は、少し弱い、変色する、その人の歯の色に近づくことがむずかしい、などが挙げられます。

自費の方ははしっぽう焼きで、全く変色しませんし、周囲の歯に極めて近い色が出せます。

保険内、保険外といひましても、最近の保険

医療は大変進んでいますので、両者にそれほど差はないようです。ただ、金属床だけは確かに良いと思います。

ここで、念のため申し上げますが、15万円の金属床を入れたからといって、この入歯は永く持つと思うのは間違いです。入歯の方は変わりませんが、歯ぐきの方が変わってきますので、入れたときに合っていた入歯が合わなくなる時期は、保険内であれ、保険外であれ同じです。

ですから、例えば、保険内で1万円の入歯で5年間我慢するか、保険外で15万円の入歯で5年間ものをおいしく食べられる方がよいのか、14万円という値段の差について価値判断をしていただければよいと思います。(要旨)

特別ゲスト卓話(統)6/19 清 忠 寿 氏

東京近代美術館での「1点の作品が私を変えた」といえましょう。あのときの異常なまでの感動が、私を絵画創作活動へとかり立ててくれたのです。

やがて、32歳の時、私は創作活動に専念できるように教職を退きました。

今でも忘れられないことは、美術評論家坂崎乙郎先生宅を訪問した時、奥様がお茶を出されましたが、中味は白湯で、お茶の葉は入っておりませんでした。後で先生から、家内は高層ビルのガラス拭きまでして金を貯え、一点の作品を私が手に入れるために、茶の葉も買わずに節約して一所懸命協力してくれているのだ、というお話を聞き、すごく感動しました。

「人と人の出会いが、大きく自分を変える」ことを悟られました。(要旨)

この後アトリエで先生の優れた作品の数々を觀賞させていただきました。

濱田会長コメント(6/19)

本日は画家清 忠寿先生のご厚意により、佐土原RC一同絵画に対する認識を新たにする事ができまして、厚くお礼申し上げます。

絵画創作については、ただ単に筆先だけの簡単な仕事とばかり思っていた僕にとって、このたびの勉強会で肌で実感しましたとともに、やはり基本は「頑健な身体と強力な精神力が備わっていないとよい絵は生まれて来ない」ことがつくづく理解できました。

清先生には今後ともご自愛のうえ、ますますのご発展と、さらに後世に残る創作にご精進あらんことを心よりお祈り申し上げまして、重ねて本日のご高配に衷心からお礼申し上げます。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

以上で、濱田会長年度の例会記録を終ります。2~3名のゲスト卓話の掲載が未了となりましたことをお詫び申し上げます。

1年間の濱田会長の多大なご功績に深甚の敬意を表しますとともに、週報原稿の整理に大変なご心労をお掛けしましたことを心から申し訳なく思っております。

池田印刷所の皆様にも、永い間お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

佐土原ロータリー・クラブの会員数が思うように増えませんので、クラブの財政面の見直しが必要となり、いよいよ次週報から手作りをするはめとなりました。なかなか心が重いのですが、引き受ける方もおられないようですので、何とかやらなければと思っています。

今後の週報は、原則としてB4判片面刷りか、B5判両面刷りにし、簡潔な編集にしたいと考えます。一番気になるのは手書きにした場合の出来映えです。雨だれ式ワープロでは時間がかかりますし.....

「週報はクラブの歴史を刻むもの」と岡村ガバナーは言われましたが、「週報は睡眠時間を奪うもの」と私にとっては言えそうです。